

- 宮古地域は、マンゴーの栽培面積が増加しているが、品質と栽培技術の平準化が課題。
- このため、農業改良普及課では、マンゴーの選果基準の統一化を提案するとともに、栽培技術の支援を実施する。
- 平成28年度には、マンゴーの生産量760トンを目標とする。

具体的な成果

普及指導員の活動

1 マンゴー生産の現状を把握

- JA、市町村等と連携した調査により、マンゴー生産の現状を把握
- 普及指導員、JA、市町村、農業革新支援専門員等の知見により現状の把握と改善策の検討



平成26～28年

- マンゴー生産の現状を把握するとともに、改善策を検討する会議の開催、コーディネートの実施

- 新規就農者等への技術指導講習会や現地検討会、JA取組サポート

- マンゴーの選果基準の統一化個別販売と、共同出荷体制の組合せによる、品質の向上

- マンゴー実証圃の設置等により生産技術の向上

- マンゴー規格外品の活用促進



2 マンゴーの品質向上※

- 統一した基準による秀品率の向上 (H26→H27)
秀品率 2%→6%
- 組織出荷率の向上 (H26→H27)
JA出荷率 17%→14%



3 マンゴーの生産量等の増加※

- 安定生産技術により、農家の収益が向上 (H26→H27)
- ①生産量
760トン→765トン
- ②単位当たり収量
1,000kg/10a→1,000kg/10a

普及指導員だからできたこと

・農業革新支援専門員の広域性を活用して他地区の情報や研究・行政機関との橋渡しを、行うことができた。

4 リーダーの育成

- 若手マンゴー生産者の組織化と活動支援 (H28)
宮古島マンゴー栽培研究クラブ設立
構成員 17名

・地域の課題を解決するため、普及組織が中立的立場でJA、市町村等関係機関と連携した活動を展開することができた。

※H28は天候不順により不作

宮古島市マンゴーのブランド化

活動期間：平成26～28年度

1. 取組の背景

宮古島市は、平成21年3月に本県におけるマンゴー拠点産地として認定され、その後補助事業導入等により大型ハウス栽培が増加している。しかしながら、生産者間の栽培技術に差がみられることから、品質の高位平準化が難しい、収穫時期が集中することや離島の離島という地理的特性から生産物の滞貨問題等が懸念された。以上の課題を解決し、宮古島市マンゴーのブランド化を目指して、生産者や宮古島市、JA等関係機関、普及課等県関係機関を構成員として地域農業振興総合指導事業に取り組むこととなった。

2. 活動内容（詳細）

地域農業振興総合指導事業を活用し、平成26年度から平成28年度の3年間、以下3つの部会構成で課題に取り組んだ。

(1) 担い手対策部会

産地リーダーの育成として、リーダー研修会や産地課題解決検討会、情報誌の発行などを行った。



(2) 生産対策部会

栽培技術の高位平準化や生産出荷組織の連携強化として、栽培講習会や合同での出荷目揃え会、生産出荷予測調査、展示ほの設置などを行った。



(3) 加工対策部会

規格外の活用促進として、加工技術検討会や加工技術における作業マニュアル作成の支援、加工品販売促進検討会などを行った。



3. 具体的な成果（詳細）

(1) 担い手対策部会による若手マンゴー生産者の組織化

平成28年度1月に、宮古島マンゴー栽培研究クラブが結成された。現在構成員は17名、毎月1回の組織活動の中で基本的な栽培管理から病虫害対策など各自がテーマを持って課題解決に向け取組とともに、他地区の状況確認や、他府県から新たな技術を得るための視察を行うなど、次期リーダー育成の場となっている。

- (2) 生産対策部会による出荷組織の連携強化、生産量、品質向上
JA による定例講習会を開催し、その中で普及員や市職員が連携サポートしたが、JA 出荷率は向上しなかった。しかし、共同出荷体制の整備が進むことで、合同マンゴー出荷目揃え会が開催され、マンゴー選果基準の統一化、品質の向上（秀品2%→6%）につながった。
また、平成26年から平成28年の期間に11の展示ほを設置、安定生産や品質向上へ寄与している。（生産実績760t→765t）
- (3) 加工対策部会による安定生産の強化
マンゴーアイスバーやカップ販売、業務用加工品の提案や販売促進支援、製造工程マニュアル作成などを行い、経営安定や新たな販路開拓による継続的な安定生産の強化を図った。

4. 農家等からの評価・コメント

（宮古島市マンゴー栽培農家 A氏）

若手メンバーで、安定生産技術取得を目指した組織ができ、よかった。今後も継続して宮古島市マンゴー産地の育成を図っていきたい。

5. 普及指導員のコメント

（宮古農業改良普及課 主任技師 渡久山）

マンゴーの安定生産や品質向上にはまだ様々な課題がある。今後も引き続き解決方法の検討、実証により、高品質果実生産につなげた活動を行っていく。

6. 現状・今後の展開等

平成28年度で活動期間は終了したが、宮古島市、JA、普及を含む県関係機関の連携は今後とも継続し、マンゴー生産者への様々な支援の実施に向けて取り組んでいる。